編集委員会から

即時オープンアクセスの潮流（欧州の Plan S と米国科学技術政策局の方針）

日本食品工学会誌の研究論文は冊子発行の１～２週間後となりますが, J-STAGE（https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jsfe/-char/ja/）に，論文の書誌事項と PDF ファイルを公開させていただいております．また，解説記事（「注目しています．その技術！」や「会員のつぶやき」なども含む）は学会ウェブページ（http://www.jsfe.jp/journal/journal1.htm）に公開しております．研究論文･解説記事ともオープンアクセスの学会誌は少ないと思います．現在，冊子発行（3 月，6 月，9 月，および 12 月の各 15 日）から公開までに少しお時間をいただているのは，会誌発送の後に日本食品工学会事務所で J-STAGE への仮アップロード作業を行い，正副編集委員長が仮アップロードの内容を到着した冊子で確認しているためです．学術雑誌によっては１年間程度を非公開とする「エンバーゴ」期間として設けて，その後にオープンアクセスとするものもあるようです．日本食品工学会誌の公開の遅れは，編集委員長の確認作業に起因するものですがご容赦ください．

出版社系の雑誌では迅速な早期公開のためと考えられますが，数か月先の冊子版の PDF ファイルをオンライン版として公開しているもの（オープンアクセスとは限らない）もあります．また，オンライン版のみのオープンアクセス誌も多くなっています．日本食品工学会誌は現在のところ，J-STAGE の早期公開を利用して早めのオープンアクセスを目指しています．なお, 冊子版の中身と DOI（Digital Object Identifier）は早期公開版の PDF ファイルから引き継げるのですが，正式公開版の PDF ファイルのヘッダーとページ番号は冊子版に合わせて修正する必要があります．

近年,「即時オープンアクセス（即座オープンアクセス）」の潮流が見られます．エンバーゴ期間を設けずに正式版（冊子版のない雑誌はオンライン版）の発行と同時に同じ PDF ファイルをオープンアクセスで公開するものです．たとえば，2020 年からは cOAlition S を支持する欧州の研究機関や財団の助成による研究成果は「Plan S」に従って当該の巻号の発行と同時にオープンアクセスとなることが求められるようになりました（https://www.coalition-s.org/）．2022 年には米国の政府機関の助成による研究成果も同様な即時オープンアクセスが求められるようになっています（米国科学技術政策局 OSTP; https://www.whitehouse.gov/wp-content/uploads/2022/08/08-2022-OSTP-Public-Access-Memo.pdf）.

日本食品工学会誌でも「即時オープンアクセス」を実施するとなると著者や読者の方々のご理解とご協力，審査・編集・出版体制の見直しが必要となります．国内外の動向を見ながら，検討したいと考えていますので，よろしくお願いいたします．

（新潟大学　田中孝明）

© 2023 Japan Society for Food Engineering